

YKK株式会社／YKK AP株式会社

〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町 1

URL <http://www.ykk.co.jp>

〈お問い合わせ先〉

YKK株式会社 環境・安全衛生グループ

〒938-8601 富山県黒部市吉田200

TEL : 0765(54)8161 FAX : 0765(54)8149

E-mail : kankyo@ykk.co.jp

YKK®

YKKグループ 社会・環境報告書 2016

人類の豊かで健康な生活と環境との調和を目指して

Social & Environmental Report 2016



表紙について

YKKグループは、次世代の子どもたちが豊かな社会生活を送ることができるよう、社会とかわり、課題を共有し解決に向けて取り組むことで社会の発展に貢献していきたいと考えています。

その思いを反映すべく、事業を通じて国境を越えたつながりを生み出すYKKグループと子どもたちが描く地球の未来が重なる姿を表現しました。



この報告書は森林認証紙を使用して印刷しています。

YKK 精神

「善の巡環」

他人の利益を囚らずして自らの繁栄はない



企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。YKKの創業者吉田忠雄は、事業を進めるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方です。このような考え方を「善の巡環」と称し、常に事業活動の基本としてまいりました。私たちはこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

経営理念

「更なるCORPORATE VALUEを求めて」



YKKは、更なる CORPORATE VALUE(企業価値)を求めて、7つの分野に新たな QUALITY(質)を追求します。

YKKグループは、お客様に喜ばれ、社会に評価され、社員が誇りと喜びを持って働ける会社でありたいと考えています。そのための手段として、商品、技術、経営の質を高めていきます。

そして、これらを実践するにあたって常に根底にあるのが「公正」であり、これを価値基準として経営判断を行っていきます。

コアバリュー

失敗しても成功せよ
／信じて任せる

品質に
こだわり続ける

一点の
曇りなき信用

目次

- P.1 YKK精神と経営理念
- P.3 YKKグループが生み出す価値
- P.5 対談 社会的な価値の創造に挑む ——
(フィリップ・コトラー教授×吉田 忠裕会長CEO)
- P.8 社長メッセージ
- P.9 YKKグループについて
- P.13 YKK精神に基づく企業の社会的責任
- P.15 各極の取り組み
 - ・日本
 - ・北中米
 - ・南米
 - ・EMEA (ヨーロッパ・中東・アフリカ)
 - ・中国
 - ・アジア
- P.27 環境への取り組み
- P.29 ステークホルダー・ダイアログ

編集方針

幅広いたくさんの方々がこの報告書を通じてYKKグループを知っていただきたいという思いから、基本的な考え方を記載した冊子版(本誌)と、数値情報などを開示するWeb版に分けて開示しています。Web版もご覧ください。
<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/csr/eco/report/index.html>
また、この冊子は紙のリサイクルに適した材料のみを用いて作成しています。不要となった際は、製紙原料となりますので、古紙回収・リサイクルが可能です。

対象範囲

YKKグループ全社(YKK株式会社、YKK AP株式会社、他)

報告期間

2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)
2016年6月発行 次回発行は2017年6月を予定しています。

配布場所: YKK黒部事業所内「YKK50ビル」受付、YKK APショールームにて配布しています。また、インターネットでは、エコほっとラインにて発送の手続きを承っています。

<http://www.ecohotline.com/>
印刷: YKK六甲株式会社(YKKグループ印刷事業特例子会社)

YKKグループが生み出す価値

YKKグループには、創業者吉田忠雄が残した数々の言葉、またそれを受け継いでいる言葉があります。ここでは、YKKグループが大切にしている言葉の一部とともに、それを体現している象徴的なデータを「YKKグループが生み出す価値」として紹介します。

失敗しても成功せよ
／信じて任せる

ファスナー生産量
87.6億本
(2015年度 生産実績)

初の海外進出 (ニュージーランド)

1959年

品質にこだわり続ける

YKK80ビル
LEED-CS「プラチナ認証」取得

91点^{*1}

エコ商品開発比率 (YKK AP)

100%
(2013～2015年度実績)

日本初のファイヤーウォール
試験所登録
(工機技術本部 分析・解析センター分析室)

2011年^{*2}

土地っ子になれ

グローバル経営体制

71 各国/地域

114 社
(国内24社、海外90社、2016年3月31日現在)

グループ従業員

44,250 名
(2016年3月31日現在)

森林経営

一点の曇りなき信用

環境経営度ランキング

4 位^{*3}

採用したい
戸建住宅用サッシ
ビル用アルミサッシ・カーテンウォール
メーカーランキング

1 位^{*4}

*1 YKK80ビル (YKK/YKK AP本社) が建物環境性能評価指標 LEED-CSにおいてオフィスビルとして日本で初めて高得点 (91/110点) での「プラチナ認証」取得 (16ページ TOPIC参照)

*2 製品中の鉛含有量の分析値を保証できる試験所として、米国消費者製品安全委員会 (CPSC) より日本初の登録

*3 第19回「環境経営度調査」製造業総合ランキング (主催: 日本経済新聞社)

*4 「採用したい建材・設備メーカーランキング2015 (戸建住宅用サッシ部門、ビル用アルミサッシ・カーテンウォール部門)」 (主催: 日経アーキテクチュア)

社会的な価値の創造に挑む

～「善の巡環」に見るYKKグループの企業活動～

現代マーケティングの父——そう呼ばれるフィリップ・コトラー教授はマーケティング理論の礎を築き、第一線で活躍し続ける知の巨人です。ここでは2015年10月に行われた、コトラー教授と吉田忠裕会長の対談の一部をご紹介します。この対談は、アメリカ留学中に教授の薫陶を受けた吉田忠裕会長がYKKの企業精神である「善の巡環」について解説し、これを受けた教授からご提言をいただく形で進行しました。



吉田 忠裕(よしだ ただひろ)
YKK株式会社/YKK AP株式会社 代表取締役会長CEO
1947年富山県生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。1972年米国ノースウェスタン大学経営大学院(ケロッグ)修了、YKK株式会社(旧吉田工業株式会社)入社。1990年YKK AP株式会社 代表取締役社長。1993年YKK株式会社 代表取締役社長。2011年YKK株式会社/YKK AP株式会社 代表取締役会長CEO(現任)。

フィリップ・コトラー (Philip Kotler) 氏
ノースウェスタン大学経営大学院(ケロッグ)教授
マーケティング理論の基礎を築いた第一人者で、「マーケティングの父」「マーケティングの神様」とも称される世界的権威。シカゴ大学で経済学の修士号を、マサチューセッツ工科大学で経済学の博士号を取得。マーケティング理論を応用した「社会課題の解決」にも積極的に取り組む。

よりよい社会をつくるのがマーケティングの究極の課題

吉田 本日は貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございます。もう40年以上も前のこととなりますが、アメリカのノースウェスタン大学経営大学院(ケロッグ)に在籍していた当時、先生からはマーケティング理論を通して、顧客ごとに異なるニーズに応えることの大切さを繰り返し教えていただきました。今でも、あの頃のことを鮮明に覚えています。

コトラー氏 もちろん私もよく覚えています。懐かしいですね。

吉田 先生は、常にカスタマーサティスファクション(顧客満足)の重要性について説かれていました。そして、企業はOne to Oneマーケティングに根ざした顧客視点のビジネスを実践す

べきだと。何よりも印象的だったのは、1970年代からすでに「マーケティングによって、よりよい社会をつくること」を研究テーマの一つに掲げているらっしゃったことです。

コトラー氏 マーケティングは、商業的な世界だけのものだと思われがちですが、本来、あらゆる分野に応用できる学問です。これを証明するために、私は次々に領域を拡大して、数多くの分野に挑んできました。地域活性化においても、NPOの活動においても、また美術館や博物館の運営においても、マーケティングは大きな効果を発揮します。そして、領域を広げていく過程で、必然的に見えてきた課題が「マーケティングによって、よりよい社会をつくること」でした。これは新しい資本主義を探求する試みと言い換えることも可能かもしれません。今も

私はこの研究を続けています。

コトラー教授の理論と「善の巡環」の近似性

吉田 当時、私は先生のマーケティングの講義を聴きながら、いつも親近感を覚えていました。

コトラー氏 どういった点においてでしょうか。

吉田 実はYKKグループの企業精神である「善の巡環」と、先生の考え方に近いものを感じていたのです。

コトラー氏 「善」ですか。興味深いですね。それは、YKKの経営哲学のことでしょうか。それともビジネスのシステムの話でしょうか。

吉田 両方といっていいと思います。企業精神として掲げていますが、私たちのビジネスの土台となるシステムとしても機能しています。

コトラー氏 面白いですね。ぜひ聞かせてください。

吉田 「善の巡環」は、YKKの創業者である吉田忠雄が企業精神を一言で表現するために創案した言葉です。この考え方が生まれたきっかけは、吉田忠雄が少年時代にアメリカの鉄鋼王といわれたアンドリュー・カーネギーの伝記を読み、深い感銘を受けたことからでした。この本の中に「他人の利益を傷つせず自らの繁栄はない」という哲学を読み取った吉田忠雄は、以来、これを自分の信念とし、「善の巡環」につながるアイデアをあたためていくことになりました。

コトラー氏 事業を始める以前から、そのような発想をもっていたわけですね。

吉田 はい。さらに事業を進める中で、「善の種をまいて、善を尽くしていけば、必ず善はむくわれ、限りなく善は巡る」という思いに至り、「善の巡環」の着想にたどり着きます。吉田忠雄が特にこだわったのは、「善の巡環」に基づくビジネスをものづくりの分野において展開することでした。

分かち合うことで共に発展・繁栄する

コトラー氏 詳しく「善の巡環」の考え方を聞かせてください。

吉田 はい。創業者吉田忠雄は「事業は社会のもの」という企業のあるべき姿について、強い信念を持っていました。「企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるもの」——私たちは事業を進めるにあたり、この点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えてきました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それが顧客、お取引先の繁栄につながり、社会貢献できるという考え方です。

コトラー氏 商品の品質やコストパフォーマンス、そして、利益を社会とも分かち合うことによって、社会の発展に貢献するということですね。さらにビジネスのシステムの点からも聞かせてください。

吉田 はい。この点については、経営学の小野桂之介先生が、興味深い分析をされているので、ご紹介したいと思います。「善の巡環」の哲学チャート(下図参照)をご覧ください。小野先生の考えによれば、「善の巡環」の軸は、「貯蓄」「社員＝株主」「成果三分配」ということになります。まず貯蓄ですが、わが社では、社員の給与や賞与の一部が社内預金として貯蓄されます。加えて「従業員持株制度」によって、給与の一部が株式保有という形で資本としていったんストックされることとなります。つまり、このビジネスのシステムは、社員から始まると言えるのです。

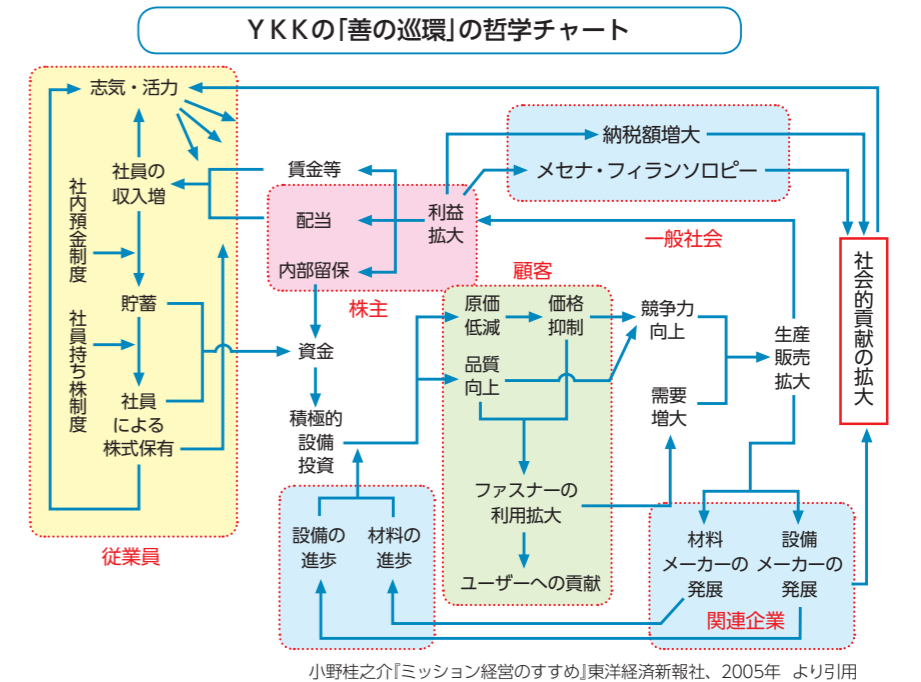
コトラー氏 通常は、ビジネスのシステムはトップから始まると思いますが、社員から始まるのですね。自社株を取得することで社員が株主となり、一部とはいえオーナーになると。面白いですね。

吉田 ええ。小野先生もここが「善の

巡環」のユニークな点の一つだとおっしゃっています。これは吉田忠雄が、株による配当は「知恵を絞り汗を流して働いた者のみに与えられるもの」と考えていたからなんですね。同時に「株は事業への参加証」であり、社員こそがこれを持つべきだと考えてもいました。私たちは、給与だけでなく、配当による収入も社員には重要であると考えています。そして、これも重要なことですが、仮に裕福な家柄の社員でお金持ちであっても、あくまでもその社員の給与や賞与の範囲でしか株は購入できません。社員は皆、公平なのです。

コトラー氏 なるほど。それは公平ですね。配当は、会社の業績を自分のモチベーションに変える手段としても有効に思えます。貯蓄された資本は、どのように使われるのでしょうか。

吉田 積極的な設備投資を行っています。どんなに優れたアイデアが社内



あったとしても、そこに割り当てられる資金がなければ具体化できません。飛躍へのスプリングとなる投資は、大変重要です。その一部を、自社株によってまかなっているわけです。

コトラー氏 自社の成長への投資なのですね。

吉田 はい。その投資により、商品の品質がよくなる、コストダウンにより価格が安くなる、そうすれば、商品の新たな用途も生み出される。さらには、関連の設備メーカーや材料メーカーの発展にもつながります。コストダウンは、直接、利益の増大にもつながり、納税の増大や社会的な貢献も可能になります。

コトラー氏 どこに投資されるのかは、オープンにしているのですか。

吉田 もちろんオープンにしていますし、透明性も高いレベルで維持しています。株主である社員に対して経営方針や業績を説明する場もあり、そのために、その時期は経営陣はかなり忙しく日本中を飛び回っています。

コトラー氏 これはまさに、社員を幸せに、サプライヤーを幸せに、コミュニティを幸せにするモデルですね。幸せな社員は、生産性がより高くなり、そのために商品はさらに向上し、市場でも強くなります。もし、別の言葉で表現するとしたら、「繁栄の巡環」、あるいは、全員が得られるという意味で、「集团的繁栄の巡環」という言葉はどうでしょうか。このようなことは私が資本主義について語った内容と合致します。資本主義では、優れた能力を楽しむ、共有しなければならないのです。その意味で、YKKは目的と情熱のある会社であるように思います。

吉田 なるほど。ありがとうございます。

コトラー氏 さらに「成果三分配」とは、どのような考え方ですか。

吉田 これは「善の巡環」を象徴する考え方です。企業活動で生み出した付加価値を、顧客、取引先、それから経営

者と社員を含む自分たち、この三者で分配しようという考え方です。顧客に対してはよりよいものを安定した価格で提供し、取引先とは、その取引先も発展するような取り引きをする。ステークホルダーと利益を分かち合うことで、共に発展することを意図するものです。吉田忠雄は、この事業サイクルをたえまなく繰り返すことで、企業はスパイラル状に発展・繁栄できるものと確信していたんですね。

コトラー氏 なるほど。企業活動においては、経営者、労働者、そしてサプライヤーなどが必要ですが、古い考えに、会社がお金をもうけたければ、労働者、サプライヤーなどに少なく支払い、多くの資金を手元に残すということがあります。この考えの問題点は、労働者が熱心に働かず、やる気を持たなくなるということです。その会社にとってベストな労働者も雇用できません。そして、サプライヤーを信用せず、毎年相手を変更し、十分な支払いをしない場合、サプライヤーはその会社とよい関係を築くことはありません。その点、私は「善の巡環」の考え方に非常に感心しました。彼らはチームとして一体感があるので、より一生懸命働くことでしょう。例えば、ラグビーのチームのように。スポーツのような「戦う意欲」といった感覚をつくりだしているのだと思います。

吉田 そうですね、まさにスポーツのチームのような一体感があるかもしれません。

コトラー氏 さらに、YKKの経営は「Win-Win-Win-Win」とでも呼ぶべきスタイルですね。経営者、社員、サプライヤー、コミュニティなど、多くのステークホルダーがWin-Winの関係でつながれている。大変興味深いのです。YKKのビジネスモデルは、新しい資本主義の道を模索してきた私自身にとっても、大変刺激的です。アプローチが非常にユニークですし、「善の巡環」には、企業が取り組むべき社

会課題の解決のヒントが数多く盛り込まれているように見受けました。

社会の課題と向き合い 新たなバリューを創造

コトラー氏 目下、あなたが創造すべきと考えるバリューがあったら、ぜひ教えてください。

吉田 世界の人口が100億人に増加するといわれる中、世界がより幸せに、よりよい社会を実現するために、人々の暮らしに関わる私たち部品メーカーの役割は何か。これを「善の巡環」に立ち返って考えると、人々を幸せにするビジネスを目指すことではないかと私は思います。例えば、シンプルでありながらもよいもの、価値あるものを人々に提供する。高価なものだけではなく、ごく一般の人々が、快適に健やかに心豊かに生活できるものを。広い視野と柔軟な発想で、世界を、社会全体を見据えたYKKらしいものづくりのあり方が求められていると思うのです。

コトラー氏 よくわかりました。あなたとのつきあいはずいぶん長くなりますが、これほどまでYKKの経営理念について話し合ったのは、これが初めてのことですね。もっと早く今日の話聞くべきでした。ですから、最後に一つだけ助言しておく、あなたは今のお話をもっと外部の人たちに広めるとよいでしょう。人々を目覚めさせることができるかもしれません。

吉田 貴重なアドバイスをいただきましたので、是非、そのように心がけていきたいと思っています。今日は本当にありがとうございました。



社長メッセージ

新たな価値を創造し 持続可能な社会に貢献

ものづくり企業として「新しい価値を創出すること」、そして「社会の持続可能な発展に貢献すること」――。

YKK精神である「善の巡環」のもと、私たちはこの2つを理想的な形でつなぐことを目指して、企業活動に取り組んでいます。創業者吉田忠雄は「企業は社会の構成員」とあり、共に発展・繁栄していくためには「新しい価値を創造し、その価値を社会に還元する必要がある」と考えていました。1959年から進出している海外においてもこうした考えに基づき事業を展開しており、現地のオペレーションは現地に任せ、そこで得た収益は積極的に現地で再投資して還元する事業スタイルをとっています。

世界71カ国/地域で事業を展開する現在は、環境対応においても、情報連絡体制や責任体制を整備することで、各国/地域での環境コンプライアンスの徹底を図っています。また昨今はアパレル業界においても環境面や労働安全対応への要請が高まりつつあり、こうした中で私たちも、安全な材料、健全な工程で作られた商品を積極的に提供するとともに、サプライチェーンを通じた環境・安全衛生・省資源等の認証取得にも取り組んでいます。環境負荷の問題においては、地の利を活かした自然エネルギーの利用、省エネ・省資源に優れた先進システムを導入した工場や本社ビル建設により、使用エネルギーの大幅削減に努めています。

今後ますます地球規模での環境対応や社会的課題の解決が求められる中、YKKグループは、商品力と提案力、それを支える技術力をさらに高めて新たな価値を創造し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。



2016年6月
YKK株式会社 代表取締役社長
YKK環境政策委員会 委員長

猿丸雅之

商品とものづくりで 新しい価値を創造する

YKK AP株式会社は、快適な住空間を創造する「窓やドア」、美しい都市景観を創造する「ビルのファサード」など、さまざまな建築用プロダクトを通して、これからの時代にふさわしい事業価値を創造し、暮らしと都市空間に、先進の快適性をお届けする企業を目指しています。

昨今では電力の需給問題に際して、住環境における省エネ性能が重要視されています。その中で、開口部は住宅の中でも熱損失が大きい部位であり、窓の省エネ性能は重要な役割を果たします。私たちは、メーカーの本質である生活者視点でのものづくりにこだわり、家庭やオフィスのエネルギー削減に向けて遮熱、断熱、通風など省エネ機能を高めた商品を積極的に開発していきます。

その生産工程においては、生産ラインのさらなる効率化と工場の耐震・省エネ化を図るとともに、商品輸送時の効率化、ゼロエミッション活動を展開することにより、低炭素・循環型社会の実現に寄与し、自然環境と調和するものづくりを目指します。さらに商品の省エネ効果とライフサイクルにおけるCO₂削減効果の見える化を行い、その価値を広く社会に提案していくことで、地球環境にも優しい快適な住環境の実現に努めてまいります。

商品と品質、そしてものづくりにこだわり続けるメーカーとして、住環境のさらなる向上につながる商品をお届けすることで、新しい価値を創造し、より豊かで持続可能な社会づくりに貢献していきたいと考えています。



2016年6月
YKK AP株式会社 代表取締役社長
YKK AP環境政策委員会 委員長

堀秀充

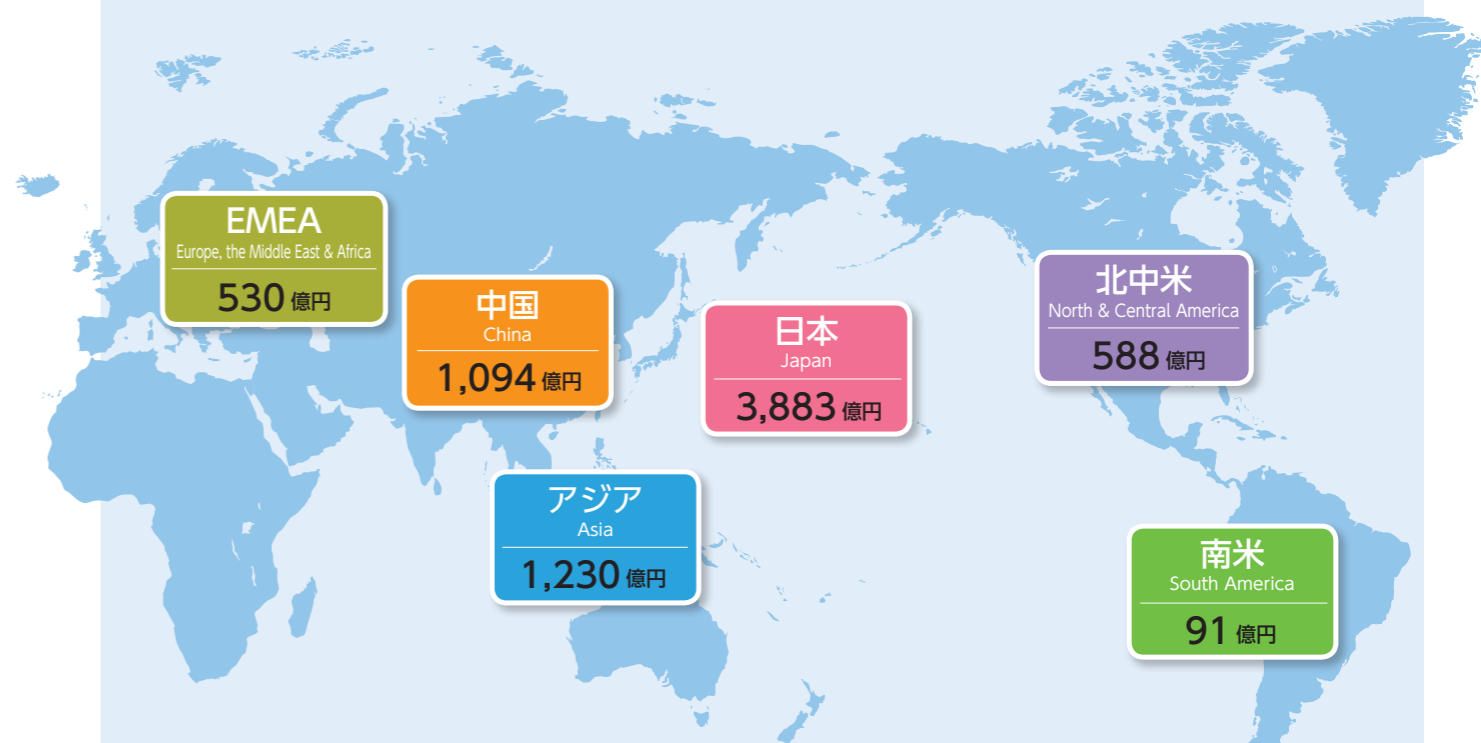
ファスニング事業・AP事業を中核とした グローバル事業経営体制

YKKグループの経営体制は、中核となるファスニング事業とAP事業、
そして両事業の一貫生産を支える工機、
3者によるグローバル事業経営と世界6極による地域経営を基本としています。



世界6極経営体制で事業展開

YKKグループは、世界6極による地域経営を基本とし、現在71カ国/地域で
事業活動を行っています。その経営体制は、世界の事業エリアを
北中米、南米、EMEA(ヨーロッパ・中東・アフリカをカバーするエリア)、中国、アジア、
そして日本の6つのブロックに分け、地域ごとの特色を活かしながら
各社が主体となってグローバル事業経営を展開しています。



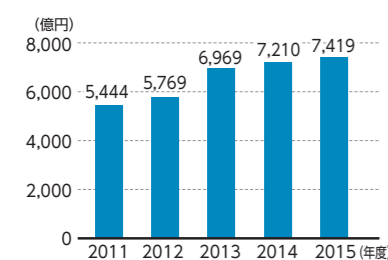
(注1) EMEAは、ヨーロッパ・中東・アフリカ地域を表します。
(注2) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。

YKKグループ

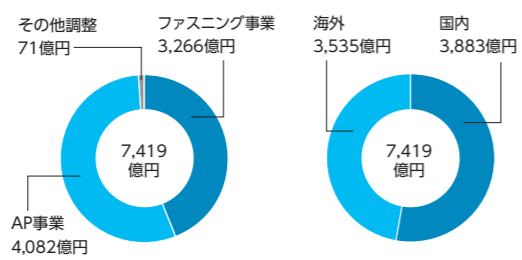
- 事業内容 / ファスニング・建材・ファスニング加工機械及び建材加工機械等の製造・販売
- グローバル体制 / 71カ国/地域 114社(国内24社 海外90社) ※2016年3月31日現在
- 従業員 / 44,250名(国内17,402名 海外26,848名) ※2016年3月31日現在

連結財務指標 YKKグループ財務情報の詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/financial/index.html>

売上高

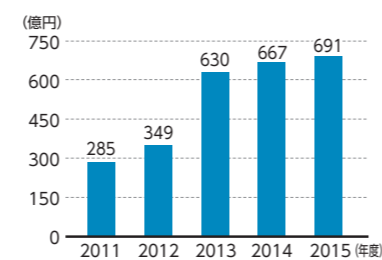


売上高構成*

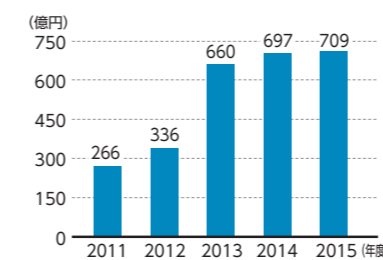


*2015年度実績に基づく

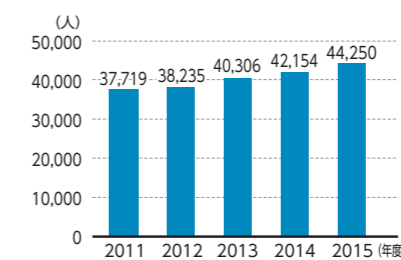
営業利益



経常利益

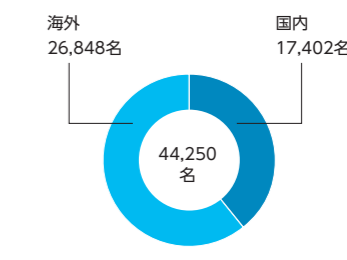


従業員数*



*各年度3月末時点の実績

従業員構成*



*2016年3月31日現在

YKKグループは、創業以来ものづくりへこだわり続け、一貫生産体制のもと、よりよい商品の提供に努めてきました。地域や社会の課題を認識し、社会・環境に配慮したものづくりで常に新しい価値を創造しながら、事業の発展を図るとともに、事業を通じて持続可能な社会づくりに貢献していきます。

YKKグループ経営理念研究会について

2008年に発足した「YKKグループ経営理念研究会」は、全社員がYKKグループの理念を確実に理解・継承していくことを目指し、その理念の本質を明らかにするための研究活動を行っています。下図は、各事業・各地域より選出された2015年度研究会メンバーが、地域・社会の課題とYKKグループの理念、事業について整理したものです。



ものづくりで地域・社会の課題解決



身近な商品(服・鞆など)に
安全・安心を



ローエネルギーかつ
快適な暮らしを

YKKグループの事業

年間100億本の
ファスナー販売

樹脂窓化の推進
(日本の窓の30%を樹脂窓に)



原材料から商品まで
安全・安心を提供



健康でローエネな
暮らしを提供

ファスナーで環境対応

環境規制物質を除去したファスナー供給



再生材を利用した循環型商品ナチュロン®(鉛フリー)

ファスナーでブランド保護

顧客との協働によるブランド保護



ブランド保護を啓発する広告の展開

樹脂窓でローエネ

CO₂排出量削減に貢献する高い断熱性能



世界トップクラスの断熱性能「APW430」

樹脂窓で健康

住まいの温度を均一に保ち、ヒートショックを防ぐ



日本全国に対応するスタンダードな樹脂窓「APW330」

YKKグループは、本業を通じて持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進しています。

▶ 基本的な考え方

YKKグループは、創業以来、“他人の利益を傷らせずして自らの繁栄はない”という思想にもとづくYKK精神「善の巡環」を全事業を貫く精神的支柱としてきました。企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。私たちは事業をすすめるにあたり、この点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えてきました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり、社会貢献できるという考えです。この「善の巡環」の精神を根幹とし、経営理念である「更なるCORPORATE VALUEを求めて」のもと、「公正」を行動の基軸として、世界71カ国/地域で現地に根ざした事業を展開しています。

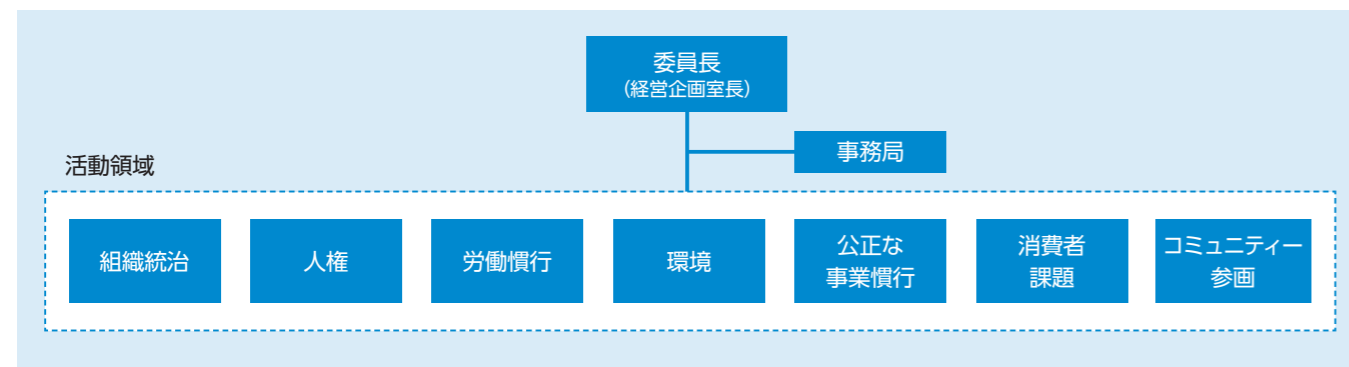
企業市民としての社会的責任

私たちには、企業市民としての責任があり、公正な企業経営を実践していくためにもこの責任を真摯に受け止めています。今、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。国際社会においても文化や慣習、考え方などの多様性を尊重し、事業活動を通して社会の発展に貢献する責務があります。YKKグループは、YKK精神「善の巡環」、そして経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」の実践を通して、これからも本業を通じて持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。

▶ 推進体制

YKKグループでは、ISO26000の7つの中核主題を参照しながら、各領域の担当部門の活動をグループ横断的な目線で支援し、全体の活動をより詳細に把握するために、2014年4月より検討委員会を設置しています。

検討委員会体制図



担当役員より



検討委員会委員長
YKK株式会社
執行役員 経営企画室長
本田 聡

2014年に発足して以来、これまで5回にわたり委員会を開催し、YKKグループ全体として社会的責任を果たしながら、社会にどのような価値をもたらしていくかという議論を重ねてきました。

そこで見えてきたのは、YKKグループにおいては「善の巡環」というYKK精神が既に基盤としてある強みの一方で、グローバルに事業を展開する中で市場・地域ごとの課題やステークホルダーからの多様な期待をどのように活動に取り込んでいくかという点です。

今後は、この強みを活かしながらさらなる活動の改善につなげるとともに、本業を通じた課題解決、社会への新たな価値提供につなげていきたいと考えています。

活動の詳細は、<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/csr/index.html> をご覧ください。

▶ 活動目標と実績

ISO26000の各中核主題別に「重点テーマと対応策」を定め、年度目標を設定した活動を推進しています。以下、2015年度の主な活動実績と今後の目標をご紹介します。

2015年度主な活動実績と2016年度活動目標

中核主題	重点テーマと対応策	2015年度主な活動実績	2016年度活動目標
組織統治	マネジメント体制の構築	検討委員会の開催 (3回/年)	検討委員会の継続開催 (3回/年)
人権	YKKグループ人権方針の策定とグループ会社への展開	・YKKグループ人権方針を策定 ・同方針をホームページに掲載して社外に発信 ・全世界のYKKグループ社員と方針を共有	人権方針の各社運用レベルへの落とし込み (国内外YKKグループ会社102社)
労働慣行	差別の無い人材育成機会の提供とYKKグループ各社における現状把握	国際人事担当者会議にて現状把握と課題の共有	四半期ごとの状況のモニタリング (国内外YKKグループ会社102社)
	安全衛生にかかる継続的な改善活動と情報収集体制の整備	・YKKグループ中期安全衛生基本方針の策定 ・YKK安全衛生基準の見直し ・グローバルな情報収集体制の整備	・グループ労働災害情報の活用 ・安全管理特別指導制度の海外拠点での本格運用 ・YKK安全衛生基準の海外への発信・周知 (YKKグループ全社) ・海外の安全衛生活動に対するチェック機能確立
環境	環境経営監査の継続的な取り組みと強化	海外環境経営監査の実施 (YKKグループ会社15社)	海外環境経営監査の継続実施 (YKKグループ会社15社)
	持続可能な調達と気候変動への適応とリスクのリストアップ	各事業において関連するリスク評価の見直し	グループ全体におけるリスク評価の見直し (YKKグループ全社)
公正な事業慣行	CSR調達の強化と調達先の実態把握と改善指導 (YKK)	日本でのサプライヤー調査実施 (106社) 中国でのサプライヤー調査実施 (55社)	日本でのサプライヤー調査実施 (105社) ・中国でのサプライヤー調査結果に基づきサプライヤー監査を実施 ・アジア地域の事業会社でサプライヤー調査開始 (YKKジブコ・インドネシア社、YKK台湾社)
	YKKグループコンプライアンス基準に基づくコンプライアンス推進	国内外YKKグループ会社で評価完了 (92社)	国内外YKKグループ会社で評価完了 (102社)
消費者課題	トレーサビリティの強化	アジア地域の事業会社 (10社) で材料受入検査データへのトレーサビリティの有効性確認と是正実施 (YKK) トレーサビリティ強化検討ワーキンググループを発足 (YKK AP)	・アジア地域での是正実施 (継続) (YKK) ・中国の事業会社 (4社) で材料受入検査データへのトレーサビリティの有効性確認の実施 (YKK) トレーサビリティに関する情報管理体制づくりの検討 (YKK AP)
	有害物質削減の推進 (YKK)	行政施策と連動した消費者との接点強化 (4件) (YKK AP)	行政施策と連動した消費者との接点強化 (継続) (YKK AP)
		業界団体を通じた情報提供 (2件) (YKK AP)	業界団体を通じた情報提供 (継続) (YKK AP)
	消費者の権利を守るための体制作り (YKK AP)	・対象4物質 (7アイテム) の切替完了 APEO (1アイテム)、有機スズ化合物 (1アイテム)、ナフタレン (4アイテム)、フッ素系はっ水剤 (1アイテム)	・対象2物質 (3アイテム) の切替推進 有機スズ化合物 (2アイテム)、ナフタレン (1アイテム)
樹脂窓商品の使い方・お手入れガイドブックの見直し (2冊)		使い方・お手入れガイドブックの見直し (都度対応)	
QRコードによる使い方・お手入れ情報の提供 ([APW430]、[APW431])		QRコードによる使い方・お手入れ情報の提供 (5アイテム)	
製品事故に関する安全啓発情報をホームページにて公開 (2件)		安全啓発情報をホームページにて公開 (都度対応)	
ライフサイクル全体や3Rに配慮した商品の開発・普及 (YKK AP)	電装部品関連情報の整備	電装部品の充実	
	エコ商品開発比率 (100%)	エコ商品開発比率 (100%)	
コミュニティー参画	商品のライフサイクルにおけるCO ₂ 削減貢献量の算出完了	商品のライフサイクルにおけるCO ₂ 削減 (省エネ) 効果を顧客に提案	
	ステークホルダー・ダイアログの強化	トップダイアログの実施 (1回) 地域コミュニティー (富山県黒部市) とのダイアログ実施 (1回)	トップダイアログの実施 (1回) 地域コミュニティー (富山県黒部市) とのダイアログ実施 (1回)

2015年度
主な取り組み

工機ファスナー専用機械部品工場での自然エネルギーの利用

YKK AP「オープンルーバー」が
エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)を受賞

事業所内保育所「たんぼぼ保育園」の開所

JAPAN

拠点一覧

◎ファスニング事業

YKK (株)
YKKファスニングプロダクツ販売(株)
YKKスナップファスナー (株)

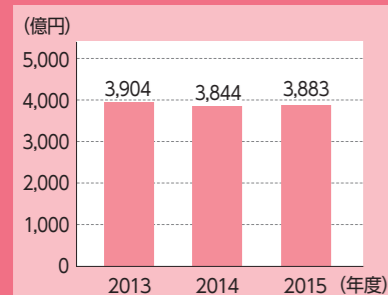
◎AP事業

YKK AP (株)
(株)YKK AP沖縄
(株)プロス
(株)イワブチ
(株)ラクシー

◎その他

YKK不動産(株)
YKKビジネスサポート(株)
(株)YKKツーリスト
(株)カフェ・ボンフィーノ
黒部エムテック(株)
黒部石油販売(株)
黒部警備(株)
(株)YKK保険サービス
黒部クリーンアンドグリーンサービス(株)
(株)エッセン
YKK六甲(株)

◎極別売上高推移



背景

「ものづくり」を担う企業には、その面白さや魅力を若い世代に伝え、引き継いでいく責任があります。また、そうした取り組みを通じて、地域社会の活性化に貢献していくことも重要な企業の社会的責任の一つだと考えています。

未来を担う子どもたちにもものづくりの魅力を発信

2015年9月にオープンした「ものづくり館 by YKK」は、ものづくりを通してさまざまな人々が自由に交流・情報交換できるイベント・コミュニティ施設です。

開館の目的は、多くの人たち、とりわけ子どもたちや若い世代に、日常生活に身近なファスナーやボタンなどを通じて、日本のものづくりの楽しさ、素晴らしさを伝えることにあります。ファスナーの仕組みや歴史、最新情報などの展示スペースは、誰でも自由に見学できます。また、ワークショップスペースでは、YKKのファスナーやボタンを使った手芸や工作の体験イベントを実施するほか、外部にスペース

を開放し、多彩なものづくりイベントやワークショップを開催しています。

また、地元「徒蔵(カチクラ)」エリア(御徒町、蔵前、浅草橋)でもものづくりに携わる若手クリエイターを支援し、地域社会の発展に貢献することも、ものづくり館に期待されることの一つです。ファッション関連のセミナーやクリエイター交流会の開催、徒蔵エリアで毎年開催される、街とものづくりの魅力を発信するイベント「モノマチ」への参加などを通じて、地元クリエイターたちをサポート。彼らと協力しながら、地域の活性化に寄与する取り組みを展開しています。



ものづくり体験ができるワークショップスペース

デザイナーやクリエイターに向けて開放されているクリエイティブ・ラウンジ



ものづくり館 by YKK



背景

近年、高齢化や入職者の減少などで慢性的な建設施工者不足が続いてきた日本の建設業界。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを前に建設需要の急速な拡大が予想される中、十分な人材を確保するため、技能の伝承と若手施工技能者の育成が急務となっています。

若手技能者を育てる「施工技能修練伝承塾」

建材メーカーとして、窓やサッシなどの建築用工業製品を開発・製造するYKK AP。しかし、それを正確に取り付けることのできる施工技能者がいなければ、建物はできあがりません。そこでYKK APでは、施工技能者を擁する協会のネットワークである「YKK APグループ施工協会」と共同で、2013年に「施工技能修練伝承塾」を設立し、若手施工技能者の育成に力を入れています。

伝承塾が目指すのは、通常なら一人前になるまで最短でも10年の実務が必要といわれるサッシ・カーテンウォール施工技能者の育成期間を、6年間に短縮すること。実務経験を積み

ながら、レベルに応じた初級、中級、上級の集中研修を2年ごとに受けることで、技能スキルの確実な向上を図る仕組みです。

YKK APのスタンダード施工を指導するため、伝承塾の講師は施工協会のメンバーが担当。細かいテクニックは普段の現場で身につけられるという考えから、基本スキルや理論を徹底的に学ぶことを目指すカリキュラムとしています。また、参加者にとっては普段出会う機会のない同世代の仲間と知り合う機会にもなっており、互いに競い合い、励まし合うことで「あきらめず一人前になるまで頑張ろうと思うようになった」との声も少なくありません。



座学研修の様子



実技指導の様子

2016年2月現在で、全国各地の現場で活躍する伝承塾卒業生は、すでに100人以上。卒業生の中から伝承塾の講師となる人材が生まれてくることも期待されています。今後も、施工協会と協力しながら、建設業界全体が抱える課題である技能伝承と人材育成に注力していきます。

TOPIC

YKK 80ビル、オフィスビルで日本初のLEED-CS プラチナ認証取得

YKK80ビル(東京都千代田区)が、世界的な建築物の環境性能評価指標であるLEED-CS*で「プラチナ認証」を取得しました。持続可能な企業活動を考える上でも高い環境性能を備えた本社ビルは不可欠であり、「120年を目標とするアーキテクチャー」として免震構造を採用し、省エネ・省資源に優れた先進システムの導入で一般的なオフィスに比べて約60%のエネルギー削減を目指しています。

*LEED (Leadership in Energy & Environmental Design) : 米国グリーンビルディング協会(USGBC)が開発・運用する環境に配慮した建物やエリア開発の認証システム。加点方式で得点に応じCertified、Silver、Gold、Platinumの4段階に分類。建築用途ごとに認証基準が異なり、CS=Core and Shellカテゴリーは新築テナントビルにおける建築躯体と設備が対象。



YKK80ビル外観

2015年度
主な取り組み

工場の屋上に太陽光発電システムを設置(YKK U.S.A.社)

米国アラバマ州より安全賞受賞(テープ・クラフト社)

従業員への Deng 熱対策を実施(YKK エルサルバドル社)

NORTH & CENTRAL AMERICA

拠点一覧

◎ファスニング事業

- YKK U.S.A.社
- テープ・クラフト社
- YKK カナダ社
- YKK メキシコ社
- YKK スナップファスナー製造メキシコ社
- YKK ホンジュラス社
- YKK エルサルバドル社
- ジェンコロンビア社

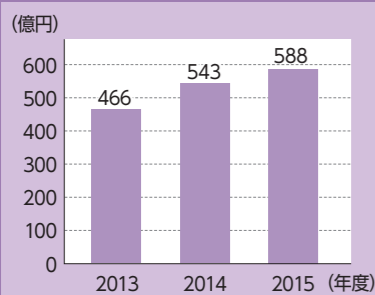
◎AP事業

- YKK APアメリカ社

◎その他

- YKK コーポレーション・オブ・アメリカ
- YKK インシュランスカンパニー・オブ・アメリカ

●極別売上高推移



背景

すべての企業にとって環境負荷の低減は大きな課題となっています。私たちに身近な商品を製造しているアパレル業界でも、製造工程ではさまざまな環境負荷がかかっており、製品加工時のエネルギー低減や洗浄時の水使用量の削減など解決すべき課題があります。

環境への負荷を減らし、 選ばれるものづくりを実現

YKK U.S.A.社では、常に商品の製造工程を見直すことにより品質の改善だけではなく環境負荷の低減にも努めています。例えば、ジーンズなどに採用されているボタンをはじめとした特殊仕上げである“ELEMENTS”では、従来品ではできなかった環境負荷低減を実現しています。商品の加工工程において通常使用する電気めっき処理のプロセスを見直しこれを使用しない工程を採用することにより、使用する薬品を最大限削減したほか、水や電力使用量を極限まで削減しています。

また、めっき加工前に行われる脱脂工程では、洗剤を使用しないバイオクリーン工程を、その後の排水をろ過・

洗浄する装置に一般的に用いられている人工シリカサンド(珪砂)ではなく、代替品としてクルミの殻を砕いた媒体を使用することにより産業廃棄物を出さない工夫をしています。

このように製造工程と加工時における取り組みの結果、平均で約75%の水使用量と約90%の電力使用量削減を達成しています。こうした環境への負荷を極限まで減らした製造工程と加工時の工夫など、ものづくりへのこだわりが広くお客様から評価されています。YKK U.S.A.社では今後もものづくりの現場から環境負荷の低減に向けた取り組みを推進してまいります。



“ELEMENTS”のサンプル



YKK U.S.A.社で進めている環境負荷低減スローガン



バイオクリーン工程

背景

米国本土にたびたび甚大な被害をもたらしてきたハリケーン。多くの家屋が全壊する原因は、強い風が運ぶ飛来物が建物の開口部やガラスを破壊し、そこから風が侵入した結果、建物の内側から壁や屋根を吹き飛ばしてしまうためです。これらのことから開口部の性能向上が課題となっています。

高い技術力と商品開発力で、 暴風による被害を最小限に

YKK APアメリカ社が主に北米で、ハリケーンなどの暴風による被害を最小限にとどめることを目的として、公的機関の建物や家屋、商業施設などを対象に販売している窓商品の一つが「ProTek®」です。この商品の開発にあたっては、断熱性や気密性を満たしながら、米国で最高レベルの強度を実現するためにさまざまな分野における研究を重ねてきました。一例として、これまで米国・フロリダ州でハリケーンの被害がたびたび起きていることから、基準が特に厳しいマイアミ・デイド郡やプロワード郡などにおいて、実際に発生するハリケーンを実験対象として強度を確認するテストを繰り返し

実施しています。この結果「ProTek®」は、過去15年間で米国本土を襲ったことのある最大規模のハリケーンがもたらす暴風にも耐えうる強度を実現。国際的な業界基準でも最高レベルをクリアしているのはもちろん、米国の建築基準法などの厳しい基準を満たした商品として高い評価を獲得しています。

自然災害への備えという課題解決のため、こうした建築や建材に対する基準は年々改定され厳しい数値が求められるっており、YKK APアメリカ社ではこれらの最新情報の収集を欠かすことなくスピーディーに技術開発、商品開発の現場へと反映させていくために研究



「ProTek®」の採用例



「ProTek®」を採用している高校



「ProTek®」の品質検証の現場

開発の体制整備にも取り組んでいます。

YKK APアメリカ社では「ProTek®」をはじめとしたハリケーン対策商品で培ってきた技術力や商品開発力を活かし、今後も米国本土の自然災害による被害の最小化に貢献していきます。

TOPIC

ジカ熱・チクングニア熱被害を食い止める蚊の駆除

ホンジュラスではジカ熱・チクングニア熱の原因となるヒトスジシマ蚊・ネッタシマ蚊の駆除対策が大きな課題となっています。ジカ熱・チクングニア熱の症状はよく似ており、ともに発熱・関節痛・頭痛・筋肉痛・発疹などを引き起こしますが、現在はこれを予防するワクチンがまだありません。YKKホンジュラス社では、特に予防が必要な子どもたちのために、事業所近隣の幼稚園や小学校などで蚊の駆除活動を行っています。



従業員による幼稚園での駆除の様子

SOUTH AMERICA

拠点一覧

◎ファスニング事業

- YKK ブラジル社
- 吉田ノルデステ社
- YKK チリ社
- YKK アルゼンチン社

◎その他

- YKK 農牧社

2015年度
主な取り組み

非常時の緊急対応ボランティアチームの結成(YKK ブラジル社)

従業員へのデング熱対策など健康への取り組み
(YKK ブラジル社、YKK アルゼンチン社)

大地震発生を想定した避難訓練の定期的な実施(YKK チリ社)

背景

現在ではBRICsの一角を占めるブラジルですが、順調な経済発展を遂げたのは2000年代以降のことです。特に、YKKがファスナー事業で進出した1972年当時は、第一次オイルショックの影響でインフレが急加速し、貧困層が急激に増大し、経済成長が強く求められていました。

「食」を通じて 日本とブラジルをつなぐ

1972年にファスナー事業でブラジルに進出したYKKは、現地で得た利益を再投資して地域社会に貢献するため、1985年にコーヒー事業を始めました。「衣」「住」に続く「食」の分野への進出が企業経営の基本であると唱えたYKK創業者吉田忠雄の想いがその背景にあります。

ミナスジェライス州ボンフィーノポリスに取得した農地では、コーヒー豆のほか肉牛、豚、生乳などを生産。地域住民を雇用し、職業訓練を通じた人材育成や技術の伝承を行い、食や農業技術分野を中心に地域経済の発展に寄与してきました。

さらに、2016年1月には、この自社

農園からコーヒー豆を直輸入し、自家焙煎で提供する「カフェ・ボンフィーノ」を東京都墨田区にオープン。よりよいものづくりのために材料や製造設備まで自社で手がけるという、YKKの「一貫生産」の考え方がここにも活かされています。

その他にも、「食」を通じた日本とブラジルとの架け橋となるさまざまな取り組みを行っています。例えば、サンパウロ郊外にある日本移民の町ピエダーデで、15年ほど前から開催されている「柿祭り」。1950年代から町の特産品となっている富有柿をアピールするイベントですが、YKKブラジル社では第1回からその協賛を続けています。



収穫したコーヒー豆と現地従業員

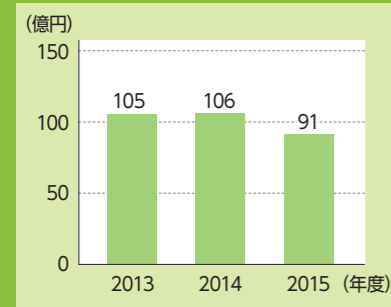


カフェ・ボンフィーノ店内の様子



柿祭りでの受賞品種

◎極別売上高推移



背景

南米大陸最大の面積を占めるブラジルでは近年、アマゾン川流域を中心として違法伐採や砂漠化が進むなど、環境破壊が問題となっています。将来を見据えた取り組みの一つとして、環境教育や持続可能な開発のための教育(ESD)がいま必要とされています。

継続的な環境教育を通じて ブラジルの自然を守る

YKKブラジル社では、従業員の家族をはじめ子どもたちを対象としたESD*プログラムを活発に行っています。工場が立地するサンパウロ州ソロカバ市では、自治体が主催する環境教育プロジェクト「Naturando」に2014年より協賛しており、7～11歳の子どもを対象に、「世界とつながろう(Coopera Mundo)」をテーマに、社会環境授業を継続的に行っています。また、市が計画する環境をテーマとした産業廃棄物再利用プログラムに賛同し、工場から排出される廃棄物の一部を遊具づくり向けの部材として提供しています。このプログラムではリサイクルした素材を再利用し、子

もたちが遊びながら資源を大切にすることを学べます。

この他の取り組みとしては、環境週間として従業員の子どもの対象とした植樹、図画コンクール、ペットボトルの再利用工作、体操教室などを開催しています。これらのプログラムの後半では、子どもたちが使わなくなったおもちゃを持ち寄り、参加した子ども同士で交換するイベントを設けています。子どもたちが誰かのおもちゃを新たに手に入れる喜びが得られると同時に、不要なものを他の人に譲る気持ちの大切さや、廃棄物を削減し資源を大切にすることを学んでもらう機会となっています。



ペットボトル再利用工作の様子



体操教室の様子

YKKブラジル社では、今後も環境教育を通じて限りある資源を大切に使うことを考える機会を子どもたちに提供し、将来のブラジルの自然を守っていく子どもたちを育てることに貢献していきます。

*ESD: Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)

TOPIC

アルゼンチンでのリユース推進に向けた取り組み

YKKアルゼンチン社では、リユース推進に向けた取り組みとして、工場から排出される廃棄物や素材のうち、リユース可能なものを必要とされる方へ無償提供しています。例えば、商品の配送時に梱包されていたダンボールは処分されずにまとめられ、アルゼンチンで子どもたちの教育や自立を支援している財団(Fundación Reciduca)へ寄付しています。同様にして不要となったナイロンやプラスチック、紙なども無償提供され、社内外の垣根を越えたリユース推進の輪を広げることにつなげています。



工場内での分別の様子

2015年度
主な取り組み

障がいを持つ従業員が働く職場の環境改善(YKKフランス社)

糖尿病研究への寄付活動(YKKスペイン社)

古くなったPCの慈善団体への寄付(YKKサザン・アフリカ社)

EMEA

拠点一覧

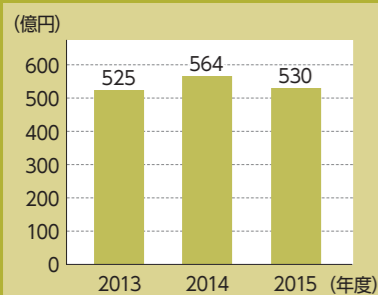
◎ファスニング事業

- YKKオランダ社
- YKK英国社
- ニュージッパー社
- YKKロシア社
- YKKデンマーク社
- YKKドイツ社
- ダイナート社
- YKKシュトゥット・ファスナーズ社
- YKKポーランド社
- YKKフランス社
- YKKチェコ社
- YKKオーストリア社
- YKKルーマニア社
- YKKイタリア社
- YKKメディテラネオ社
- YKKスペイン社
- YKKポルトガル社
- YKKギリシャ社
- YKKトルコ社
- YKK中東社
- YKKモロッコ社
- YKKトレーディング・チュニジア社
- YKKチュニジア製造会社
- YKKエジプト社
- YKKケニア社
- YKKサザン・アフリカ社

◎その他

- YKKホールディング・ヨーロッパ社
- YKKヨーロッパ社

◎極別売上高推移



背景

流行の変化が早いファッション業界においては、新たな発想を持つ若い才能を育てることが課題となっています。一方で、ファッションを学ぶ学生たちが自由な発想でデザインするうえでは、資金の確保や新たな素材に触れる機会が少ないことなどが制約となっています。

ファッションの最先端地域で若い才能の育成に貢献

ファッション業界における流行の発信源である欧州では、YKKグループに求められる社会的ニーズも他の地域とは異なります。

YKKグループの欧州現地法人YKKヨーロッパ社が2015年12月にイギリス・ロンドンにオープンした「YKK London Showroom」は、イギリスのバイヤーをはじめヨーロッパのファッション業界関係者への情報発信・交流の場として活用していただくだけでなく、次世代を担う若い世代のサポート拠点としての役割も担っています。

YKKでは、学生向けのファッションデザインコンペティションである

International Talent Support (ITS)への協賛を2005年より続けており、次世代のファッション業界を担う若い世代に、素材を購入するための資金や最新の素材に触れるチャンスを提供し、優れた才能を持つ学生が自由な発想を惜しみなく発揮できる環境づくりに取り組んでいます。この他、ポーランドやトルコでも、芸術やファッションを学ぶ学生が作品発表の機会として実施するファッションショーへも協賛。EMEA地域の各地でファッション業界全体の発展を見据えた支援活動を幅広く展開しています。



ロンドンショールームの内観



若手デザイナー向けセミナー(トルコ)



ITS2015 YKK AWARD受賞作品

背景

高い失業率とインフレ率の上昇に悩まされるエジプトでは、人口の約4割が貧困層といわれています。特に南部のヌビア地域のように砂漠の多い地域では、観光以外の産業がほとんどなく、また文化的な背景から女性の経済的な自立が急務の課題となっています。

エジプトの女性たちの経済的自立をサポート

世界71カ国/地域で事業展開しているYKKでは、経済的な課題を抱える地域への進出も多く、このような地域においては自社商品を通じた課題解決に力を注いでいます。

YKKエジプト社では、2011年からJICA(国際協力機構)青年海外協力隊を通じてエジプト南部のヌビア地域に住む女性たちへのファスナーの無償提供をすることで、経済的な自立を支援しています。

観光が主力産業であるヌビア地域の女性たちはこれまで、政府や海外からの支援を受けながら、現地で調達できる素材でトートバッグやポーチなどの手工芸品をつくり、観光客向けのお土産

産として販売していました。これらの支援により販売に至るまでの仕組みは確立されましたが、今度は商品が思うように売れないという新たな課題に直面していました。現地で調達するファスナーでは壊れやすく、主な買い手となる欧米人観光客にはなかなか受け入れられないものでした。

JICA青年海外協力隊よりこの話を聞いたYKKエジプト社は、これまでの事業を通じたノウハウを最大限に活用し、このお土産に使われるファスナーのサイズや使用方法、頻度などについて、実際に商品を使う最終消費者の情報を考慮し、自社で製造するファスナーの中から最適な商品を選定し、



ポーチをつくる女性

バッグの完成品



使用されたファスナー

女性たちに提供することに成功しました。これにより、彼女たちの販売する手工芸品の品質は飛躍的に向上し、価値のある商品として観光客に受け入れられるようになりました。

YKKはこれからも品質にこだわり続け、世界中で起きている課題の解決に貢献していきます。

TOPIC

スワジランドにおける野菜の栽培

YKKサザン・アフリカ社では、スワジランドの地域貢献活動チームにより地域住民への技術支援や進行管理を行い、持続可能な農法で野菜を育てています。長期にわたる日照りと水不足の中、2013年から継続的にこの活動に取り組んでおり、現在では46の畝を育てるまでに発展しています。今後も技術支援を通じて「食」と「健康」の基本的なニーズを満たし、スワジランドの社会の発展に寄与していきます。



さまざまな種類の野菜が育つ畑

2015年度
主な取り組み

上海・閔行区「省エネ排出削減先進企業」「環境友好企業」表彰
2年連続受賞(上海YKKジッパー社)

工場屋上に大規模太陽光発電システムを導入(YKK 深圳社)

金鷄湖でのゴミ拾いと環境保全活動の実施(YKK AP 蘇州社)

CHINA

拠点一覧

◎ファスニング事業

- 上海YKKジッパー社
- 上海YKKトレーディング社
- 大連YKKジッパー社
- YKK 深圳社
- YKK 深圳トレーディング社
- YKK ファスニングプロダクツ販売上海社
- YKK スナップファスナー無錫社
- YKK 廈門トレーディング社
- YKK 香港社
- YKK ファスニングプロダクツ販売香港社
- YKK スナップファスナーアジア社
- YKK マカオ社

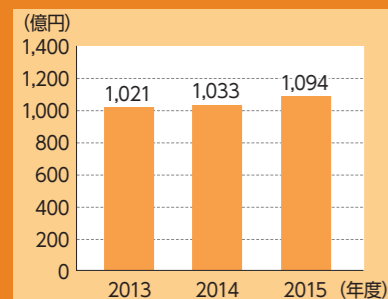
◎AP事業

- YKK 中国投資社 AP事業部
- YKK AP大連社
- YKK AP深圳社
- YKK AP蘇州社
- YKK AP上海社
- YKK AP FACADE香港社

◎その他

- YKK 中国投資社
- 蘇州YKK工機会社

◎極別売上高推移



背景

近年、模倣品や海賊版による被害が世界中で拡大しており、その被害総額は世界で年間80兆円に上るともいわれます。こうした模倣品や海賊版は、長年にわたり築き上げられたブランドの価値を損ねるだけでなく、犯罪組織などの資金源となる可能性があることも指摘されています。

中国における模倣品対策に取り組む

YKKでは、世界の市場に出回っているYKKファスナーの模倣品や、それを使用した商品の排除に向けて、さまざまな対策を行っています。

その目的には、YKKファスナーの模倣品が出回ることによるYKKブランドのイメージ低下を防止するだけでなく、それ以上にYKKファスナーをお使いいただいているお客様ブランドの信用を守ることが挙げられます。お客様ブランドの模倣品には、多くの場合YKKファスナーの模倣品が用いられているため、YKKファスナーの模倣品を排除することがお客様ブランドの模倣品の排除にもつながります。

もちろん、効果的な対策を進めるためには、一社だけの取り組みでは不十分です。YKKでは、お客様企業をはじめとする関係企業と協働でブ

ランドを守るための「B.P.P. (Brand Protection Partnership)」活動を推進しています。「Protect Together」をスローガンとしたブランド保護活動を展開するとともに、模倣品製造工場の取り締まりや税関での取り締まりをスムーズに行うため、税関をはじめ行政機関との関係構築にも努めています。

模倣品による被害が多数報告されている中国でも、YKKファスナーの模倣品を製造・販売する業者の取り締まり、中国から海外へ模倣品が流出しないように税関での輸出差し止めなどの取り組みを進めています。また最近ではインターネット上での模倣品の取引が増えていることから、電子商取引業者と連携しながら模倣品の撲滅に向けて取り組みを強化しています。



ブランド保護を啓発する広告



行政機関を
敬訪問する
YKK従業員



税関職員を
対象としたセ
ミナーの様子

背景

急速な成長を遂げてきた中国の製造業ですが、従業員の研修制度などが不十分な企業も多く、製品品質のばらつきが安全性の欠如につながるなどの問題も起きています。製品の安全性や品質に対する信頼性確保が課題になっています。

パートナー企業へ研修プログラムを提供

YKKグループでは、商品の品質向上のため、パートナー企業の従業員の技術力向上をサポートする研修プログラムの提供に力を入れています。

例えば、中国各地に拠点を置くYKK AP各社では、主な商品である窓を製造する現地パートナー企業向けの施工・製造研修を実施しています。部品などの名称・用語や、製造・施工にあたっての遵守事項など、最終商品の品質を確保するための基礎知識を身につけてもらうとともに、従来は企業ごとに異なっていた工程や手順の統一を徹底し、品質のばらつきを防ぐためにYKK APが定めている標準工程やルールについても再確認しています。さら

に、研修所での座学と実技研修だけではなく、研修受講者を対象に、実際の現場におけるフォローアップ研修も実施し、いっそうの技術力の底上げに努めています。

2015年度は計30回の研修を実施し、パートナー企業36社から計115名にご参加いただきました。こうしたパートナー企業と協力した取り組みが、商品の品質向上とともに他社との差別化にもつながっていると考えています。

また、安全衛生などの労働環境を向上させるためには、従業員一人ひとりの意識を高めることも重要です。YKKグループが実施する研修におい



パートナー企業への座学研修の様子



施工研修所での実技研修の様子



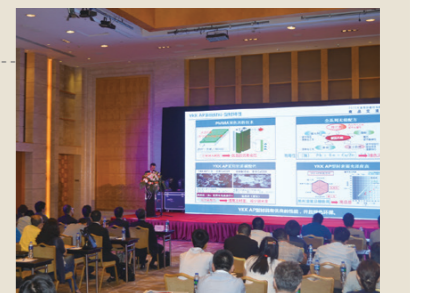
フォローアップ
研修の様子

ては、技術のみならず、労働安全衛生に関する教育にも力を入れています。パートナー企業従業員の安全や健康に関する知識の向上を図ることで、作業中の事故や災害ゼロを実現していきたいと考えています。

TOPIC

省エネ樹脂窓の説明会を実施

YKK AP大連社では、樹脂窓がもたらす環境や健康へのメリットをより多くの皆様に知っていただくため、省エネ樹脂窓の説明会を行いました。ここでは、取引先やお客様、施工会社の関係者のみならず、大連市建築省エネ協会などの環境に関する専門家も含め、240名にご参加いただきました。今後も同様の説明会を開催し、商品を通じてステークホルダーの皆様とコミュニケーションを図っていきます。



説明会会場の様子

サッカーを通じた教育支援活動の実施

2015年度
主な取り組み

女性の自立支援に向けた自社職業訓練センターの取り組み(YKKインド社)

「TOP PRODUCT PROPERTY 2016」(アルミニウム製建具部門)
2年連続第1位受賞(YKK APインドネシア社)

ASIA

拠点一覧

◎ファスニング事業

- YKK 韓国社
- YKKファスニングプロダクツ販売韓国社
- YKKパキスタン社
- YKKインド社
- YKKバングラデシュ社
- YKK台湾社
- YKKベトナム社
- YKKタイ社
- YKKフィリピン社
- YKKスリランカ社
- YKKマレーシア社
- YKKインドネシア社
- YKKジプコ・インドネシア社
- YKKオセアニア社

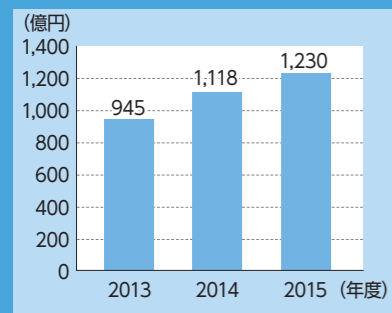
◎AP事業

- YKK AP FACADE社
- YKK APシンガポール社
- YKK AP FACADEベトナム社
- YKK台湾社 AP事業部
- YKK APインドネシア社
- YKK APマレーシア社
- YKK APタイ社
- ボルネオ社

◎その他

- YKKホールディング・アジア社
- YKKディベロップメント・シンガポール社
- ゴールデン・ヒル・タワー社
- YKKアルミニウム・オーストラリア社
- YKK GPSクイーンズランド社

●極別売上高推移



背景

衣服だけでなくバッグなどにも採用されているファスニング商品は、直接肌に触れる素材です。製品の安全基準に関する法整備があまり進んでいない国/地域では、鉛などの有害物質を含む製品も多く、健康被害の原因として大きな課題になっています。

ファスナー交換で、有害物質のリスクを啓発

フィリピンをはじめアジア地域で暮らす子どもたちが日常的に身につけている制服やバッグのファスナーの中には、鉛などの有害物質を含むファスナーが使われているケースが少なくありません。この状況を社会問題として捉えたYKKフィリピン社では、非政府機構のEco Waste Coalitionの協力を得ながら「安全なジッパーに交換しよう」キャンペーンを実施しました。この取り組みを通じて有害物質を含むファスナーなど、計200本を超えるファスナーをYKK製の有害物質フリーの安全なものへと交換しました。

この画期的な取り組みは現地で大

きな話題となり、数多くのメディアによって報道されました。その結果、鉛が有害物質であり、触れ続けることにより健康被害をもたらすという認識そのものが大きく広がり、さらには低品質な衣服や日用品にはこうした有害物質が含まれているケースがあるということも多く国民・市民に伝える機会にもなりました。YKKフィリピン社では今後も有害物質フリーの商品提供と健康被害に関する確かな情報提供を通じて、子どもたちを中心とした健康リスクの低減に貢献していきます。



キャンペーンスタッフの集合写真



ファスナーを交換するYKKの従業員



ファスナー交換を希望する子どもたち

背景

アジア地域は、熱帯や湿潤な気候、乾期や雨期がある地域、加えて大型台風が発生する地域など、多様な気候・風土に富んでいます。そのため、住環境による健康影響や大規模な風水害なども想定した商品開発が求められるなど、健康で安全な住生活環境に対するニーズはさまざまです。

技術力で実現する住生活環境の向上

YKK APでは、アジア地域の高温多湿という気候特性や地域ならではのニーズに合わせた窓およびドアの基幹商品の開発に力を入れています。

大型の台風により甚大な風水害が度々発生している台湾では、台風時の強風と大雨にも対応した製品が求められます。YKK APではこのような社会的ニーズに基づいた高水密商品を開発し、「YRB-A」シリーズとして展開しています。YKK台湾社 AP事業部の品質や技術力は、高級集合住宅を中心とした現地の消費者に受け入れられているほか、建築関係者からもその優れた実用性とスタイリッシュな外観が台湾の美しい建築環境の発展に貢献し

ているとして高く評価され、「理想の住まいに採用したい建材・設備メーカー」で4年連続第1位*に選定されています。

また、インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナムなどの東南アジア地域では、「NEXSTA(ネクスタ)」シリーズを展開しています。開口部としての重要な基本要素である性能を確保し、わかりやすくシンプルな機能で操作性・安全性・防犯性などに配慮しています。さらに地域で求められていた高さ3mを超える大開口、今後求められる省エネへの配慮を実現しており、多くの消費者から受け入れられています。

YKK APでは、今後も国や地域で異



ショールームに展示される「YRB-A」



「NEXSTA」商品の一例



「NEXSTA」商品の一例

なる気候や風土にも対応し、お客様の多様なニーズと期待に応えることを目指していきます。高い技術力と商品開発力で高付加価値な商品を生み出し続け、アジア地域における住生活環境の向上と安全な暮らしに貢献していきます。

*「理想の好宅に採用したい建材・設備メーカー」サッシ部門(主催：社団法人台湾建築美術文化経済協会)、2012～2015年の4年連続

TOPIC

医師による地域住民や学校への健康教室の実施

インドネシアでは、水道などのインフラを含めた生活環境や高温多湿な気候が影響し、地域全体を通じた衛生や健康に対する意識と知識の向上が必要とされています。このような中、YKKインドネシア社では、現地の医師と協力しながら、地域の住民に向けた健康教室を実施しています。手の洗い方や歯の磨き方などの基本的なことから、地域住民の衛生と健康に役立つ取り組みを行っています。



健康教室の様子

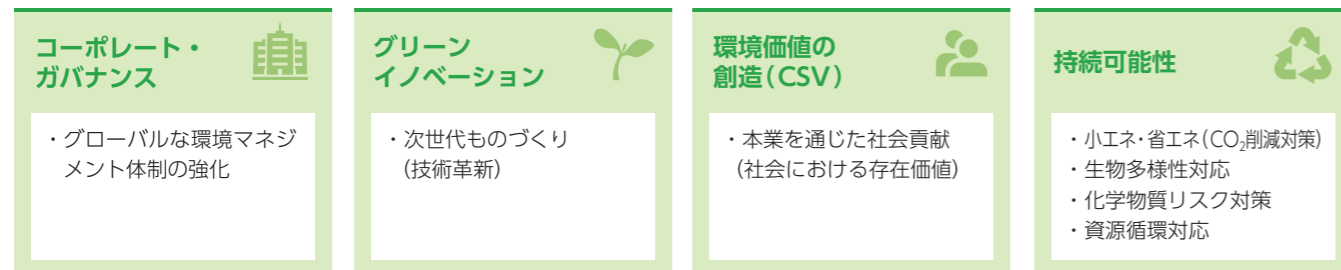
YKKグループは、1994年9月に「YKKグループ環境宣言」を制定し、事業活動の全ての領域で環境活動に取り組んでいます。また、2001年度より中期の環境経営方針・環境政策を4年ごとに策定。2013年度からの第4次中期環境経営方針では、コーポレート・ガバナンス、グリーンイノベーション、環境価値の創造、持続可能性を重点テーマとした環境政策を進めています。

YKKグループ第4次中期環境経営方針

持続可能な社会づくりへの貢献 小エネ・省エネを追求したものづくりの創造

YKKグループは、環境宣言に則り、環境に配慮し、技術力を活かした新しい価値を創造することで、持続可能な社会づくりへ貢献していきます。

4つの重点テーマ

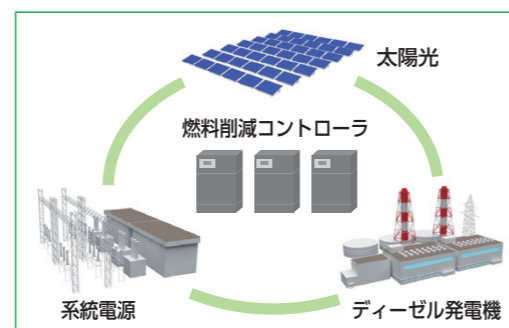


気候変動への取り組み

YKKグループでは、企業の社会的責任の取り組みを継続し、さらに拡大していくためにも、2030年度目標としてCO₂排出量30%削減(2013年度比)を掲げています。従来の節電などの取り組みに加えて、「小エネ・省エネを追求したものづくりの創造」をキーワードとして、高効率の生産体制や省エネ技術、設備開発などの技術力を活かした施策を遂行しています。具体的には、再生可能エネルギーの利用拡大方針のもと、固定価格買取制度(FIT制度)を活用しない自家消費型太陽光発電の導入、地下水熱を利用した空調の普及拡大などに積極的に取り組んでいます。

太陽光発電の導入

YKK Bangladesh社では、太陽光発電とディーゼル発電を組み合わせたハイブリッド発電システムを導入し、燃料を年間9万リットル、CO₂排出量を年間265トン削減。この新システムを使った発電は、途上国に導入した技術やシステムの普及で削減できたCO₂排出量の一部を日本国内の排出削減に活用できる「二国間クレジット制度(JCM)」で実施しました。



ハイブリッド発電システムのイメージ

地下水熱利用空調の導入

富山県黒部市のYKKグループ各拠点では、黒部川扇状地の地下水の安定した水温を利用した高効率空調の導入を進めています。2012年度に導入した地下水熱利用空調で高い効果を確認できたことを受け、2015年度には工機ファスナー専用機械部品工場をはじめ6カ所で導入しました。地域への環境影響に配慮し、今後も導入を推進していきます。

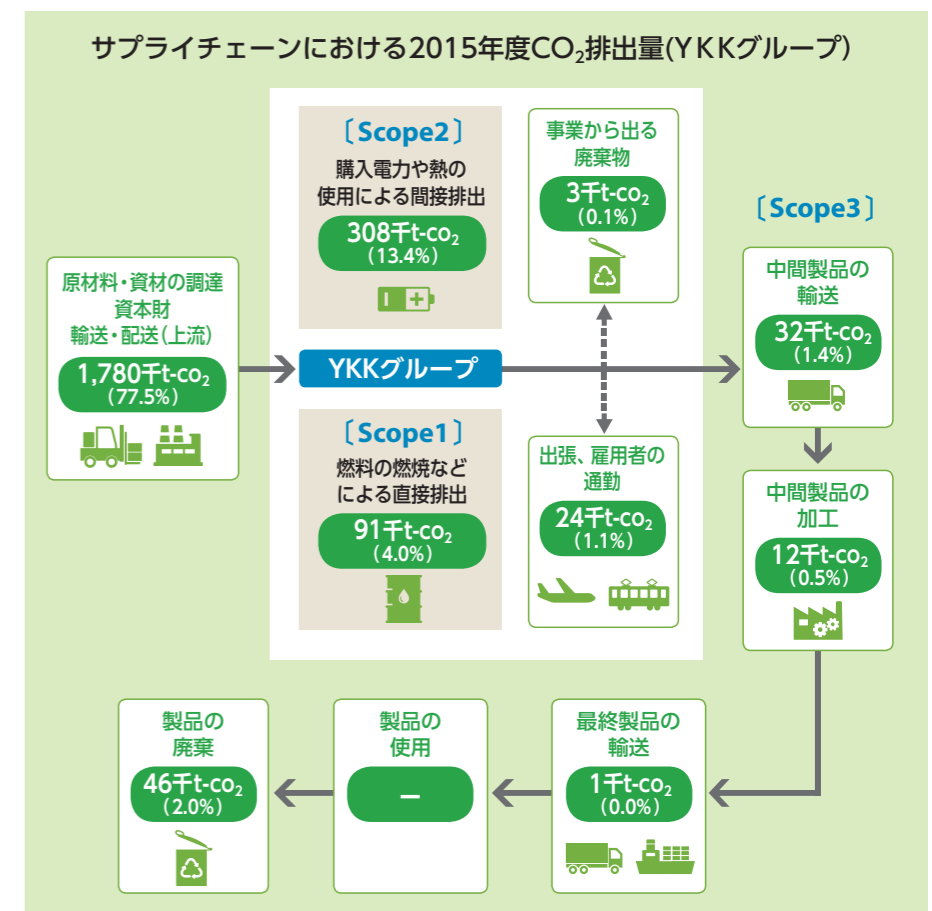
活動に関するデータの詳細は、<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/csr/eco/report/index.html> をご覧ください。

サプライチェーンを通じたCO₂排出管理

YKKグループでは、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を算定・報告するための国際基準「Scope3」を導入し、従来の直接排出(Scope1)と購入電力や熱の使用による間接排出(Scope2)に加えて、資材調達、中間製品の加工、輸送、製品の使用と廃棄に伴う温室効果ガス排出量を算定しています。その結果、原材料・資材の調達に伴う排出が、グループ全体の排出量の75%以上を占めることがわかりました。

これを受けて、2014年度から、原材料・資材調達の部分に焦点を当て、各事業で排出削減に取り組んでいます。

窓の使用段階においては、断熱性の高い商品の提供により家庭やオフィスなどでの空調エネルギーを削減し、CO₂削減に貢献しています。



(注)算定方法等の詳細は、環境省グリーン・バリューチェーンプラットフォームの取組事例(YKK、YKK AP)に掲載されています。http://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/business/case_smpl.html

水リスクへの対応

YKKグループでは、グローバルに生産活動を行う上で、貴重な淡水資源を守るため、保全活動を進めています。製造工程における水使用量の削減や循環利用はもちろん、地域の特性に合わせた雨水の利用や地下水保全なども行っています。

黒部川扇状地の地下水保全

富山県黒部市のYKKグループ各拠点では、黒部川扇状地の豊富な地下水を利用しています。この地下水資源の持続的な利用を目指し、富山県立大学の協力を得ながら、調査および保全活動を行っています。これまでの調査により、黒部川扇状地の水収支、地下構造、地下水の流れ方および年齢が分かり始めており、これらに基づく3次元シミュレーションモデルを構築しました。また、これらの調査から得た黒部川の水環境についての動画を作成し、資源保全意識の啓発や環境教育に活用していきます。今後は、気候変動による降水量の変化が地下水にもたらす影響を把握するとともに、適正な地下水量の利用に努めていきます。



黒部川の水環境に関する環境教育向け動画(イメージ)

共に考える「地域社会とYKKグループ」



YKKグループは、ステークホルダーの皆様と意見交換するステークホルダー・ダイアログを2010年より毎年開催しています。第7回目(2016年4月21日実施)のダイアログでは、前年に続きファシリテーターとして九里 徳泰先生をお迎えし、取引先から消費者、地域社会、環境団体、学生などあらゆる層のステークホルダーの皆様にご参加いただきました。午前中に富山県黒部市のYKK社宅跡地で整備を進めている「パッシブタウン」を見学いただいた後、午後からワークショップ形式でステークホルダーの皆様と社員とで意見交換を行いました。



皆様で植樹した桜の木とともにYKKセンターパークにて

参加者の皆様

- ナチュラリスト: 松木 紀久代氏(黒部峡谷ナチュラリスト研究会 副会長)
- 消費者: 稲垣 里佳氏(富山県地球温暖化防止活動推進員)
- 自治体: 高本 美智子氏(黒部市役所 市民生活部市民環境課 課長補佐・環境係長)
- 環境団体: 佐野 敦氏(公益財団法人とやま環境財団 協働交流課長)
- 地域住民: 大上 久雄氏(村椿自治振興会 会長)
- 取引先: 平野 明氏(平野工務店株式会社 代表取締役)
- 学生: 大石 直人氏(富山県立大学大学院工学研究科環境工学専攻2年)
- 海外留学生: 宋 笑晶氏(富山県立大学大学院工学研究科環境工学専攻1年)

session 01 パッシブタウン見学

YKKグループが進めるまちづくりの一つである自然エネルギーを活用したパッシブタウンは、2025年までに約250戸の整備を目指す複合型賃貸集合住宅です。今回は、完工した第1期街区の見学を行い、YKKグループが未来に向けた暮らしを提案する住まいを体感してもらいました。



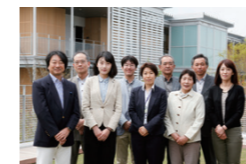
パッシブタウン第1期街区の一角にて。外壁上部に見えるパネルで太陽熱を集めて給湯に利用する

パッシブタウンとは

コンセプト

- 21世紀の持続可能な社会にふさわしい、ローエネルギーなまちと住まい
- 地下水や自然エネルギーを積極的に取り入れた、地球に優しい快適な暮らし
- 黒部の気候風土と自然環境を活かすランドスケープ
- 地域と共生し、コミュニケーションが活性化し、開かれたまち
- 仕事と生活が調和する、動きやすい、住みやすいまち

自然エネルギーを活用した生活を体験する



パッシブタウン内に開設された「たんぼ保育園」の屋上にて。社員が安心して働き続ける環境づくりにも配慮している



パッシブタウンの商業棟にて。風(あいの風)の通り道を街区全体に行き渡らせる設計となっている



モデルルーム内にて。全室南向きで開放感があり、冬場の日射を大きく取り入れることで暖かく過ごせる



モデルルームベランダにて。夏場の強い日射対策として効果的に風や光をコントロールできるオーニングなども備えている



地下駐車場にて。この下に貯水施設を備えており、地下水熱を冷房に利用している

パッシブタウンの見学を通じて、参加者からは「自然エネルギーがここまで活用されているのか」という驚きや、「設計の工夫によって風や日光をうまく取り入れていますね」という声も聞かれ、年間を通じて快適に過ごせることを肌で感じ

取っていただきました。また、地下には間伐材など県内で不要となった木材をチップ化した燃料を利用するバイオマスボイラーを備えており、地域内でのエネルギーの地産地消も図られています。

session 02 「低炭素型まちづくり」を考える

午後からは、ステークホルダーの皆様が3つのグループに分かれ、YKKグループの社員とワークショップ形式で、「2050年に向けた黒部市の低炭素型のまちづくり」について意見交換を行いました。

パッシブ思想の拡大と共動・共有社会の実現

私たちは2050年には黒部市の全てのまちをパッシブタウン化したいと思えます。低炭素社会につながるものとして、共有できるものはなるべく地域で共有すること、加えて地域の自然資源を活かすシステムを作ることが必要であると考えました。例えば、交通システムにおける電気自動車のカーシェアリング、その電気の供給源は黒部市内の河川を利用した小水力発電による自然エネルギーを活用する、さらにはダム



の流木や間伐材の資源化・再利用なども考えられます。そのような未来社会を黒部で実現させるため、地域の資源、住民の知恵、そこにYKKグループの「共動」をかけ合わせていきたいと思えます。

黒部らしさを活かしたライフスタイルを描く

黒部で未来の低炭素社会を実現するには、私たちのライフスタイルも見直さなければならないと思えました。自動車には乗らず自転車で移動する、誰でもどこでも利用できる循環する交通網で移動をシェアすることなども考えられます。また、黒部には海・山・川という豊富な自然があるので、これらを活かし、不要な電気やガスを使わない住まいや街などが体験できるエリアを実験的に展開することも面白いかもしれません。エネルギーに頼らず健康的でいきいきと生活している



黒部市民の姿が理想です。現状では難しいかもしれませんが、実現できるよう、パッシブタウンを推進するYKKグループに期待しています。

ロードマップで描くゼロエミッションコミュニティの実現

私たちのグループでは、まず2050年の黒部市のあるべき姿を描き、それを実現するためのロードマップを考えました。2050年には、全てのエリアでのパッシブタウン化やゼロエミッションコミュニティが実現し、生ゴミでさえも発電に利用し、その電気を利用して車も走る完全循環型社会が実現した低炭素なまち—黒部市を想定しました。その実現のために、近い将来である2020年には、カーシェアやパッシブタウンがこれまで以上に拡大していることでしょう。



低炭素社会は黒部市から始まるかもしれません。YKKグループには今後も黒部市のパッシブタウン化を進めてもらいたいと思います。

ステークホルダー・ダイアログを通して

ステークホルダー・ダイアログは2010年より開催され7回目となりました。ステークホルダーの意見を企業経営に取り入れ実践することは容易ではありません。ダイアログの継続と真摯な企業態度を高く評価します。本年度は、全世界での温暖化対策「パリ協定」を背景に、黒部事業所のある黒部市の「低炭素型まちづくり」を3グループで話し合いました。企業と市民が共動・共有、黒部らしい低炭素ライフスタイル、ゼロエミッションコミュニティ 構想と意欲的な意見が多く出ました。これらの意見を受けYKKグループが実践できることから始めていただきたいと思います。



九里 徳泰(くのりのりやす)氏

- ・相模女子大学学芸学部教授 博士(工学)
- ・富山県立大学大学院工学研究科 非常勤講師(環境経営)
- ・富山市政参事